令和６年度

北 区 学 校 フ ァ ミ リ ー
事 業 報 告 書

東 京 都 北 区 教 育 委 員 会

は　じ　め　に

北区教育委員会教育長　福田　晴一

北区は、平成１５年度に「北区学校ファミリー構想」を策定し、他区に先駆けて、小中連携教育を推進してきました。
その成果を踏まえ、平成２０年度には「小中一貫教育基本方針」を策定し、モデル事業を経て、平成２４年度から「学校ファミリーを基盤とした北区の小中一貫教育」を全校で実施しています。現在、各サブファミリーが地域と一体となった特色ある教育活動に取り組むとともに、北区小中一貫教育カリキュラムを活用し、９年間を見通した教育を行っております。

本事業報告書では、各サブファミリーにおける１年間の交流や「学校ファミリーの日」の活動状況と、「学校ファミリーを基盤とした小中一貫教育」の具体的な推進状況が記されています。今後、それぞれのサブファミリーにおいて、推進の一助として活用してほしいと願っています。

さて、令和６年３月に策定された『北区教育ビジョン２０２４』では、取組の方向の一つとして、「幼児期からの育ち・学びを支える」を掲げ、「就学前教育・保育の充実」、「学校ファミリーを基盤とした教育活動と小中一貫教育の推進」を図り、各サブファミリーによる特色ある取組を行っています。

小中一貫教育については、令和６年４月に開校した「都の北学園」の事例を検証・発信源とし、義務教育９年間の切れ目のない一貫した指導体制を共有し活用することにより、北区全体の小中一貫教育の更なる充実・発展を図ります。

今後も、北区教育委員会は、幼児期から義務教育終了までの一貫した子どもの育ち・学びの系統性・連続性を踏まえた教育・保育事業をより一体的に展開してまいります。
関係者の皆さまには、引き続きご理解とご協力を賜りますよう、よろしくお願いいたします。

目　次

Ⅰ　サブファミリー事業報告

王子桜中・王子小・東十条小・さくらだこども園 ························ 1

十条富士見中・王子第二小・王子第三小・王子第五小・十条小・
　　じゅうじょうなかはら幼 ······································· 3

明桜中・王子第一小・豊川小・柳田小・としま若葉小 ······················ 5

堀船中・堀船小・滝野川第五小 ······································ 7

稲付中・梅木小・西が丘小・うめのき幼 ······························ 9

赤羽岩淵中・赤羽小・岩淵小・なでしこ小・第四岩淵小 ···················· 11

桐ケ丘中・桐ケ丘郷小・袋小・八幡小・赤羽台西小 ······················· 13

浮間中・浮間小・西浮間小 ·· 15

田端中・滝野川第四小・田端小 ······································ 17

滝野川紅葉中・滝野川第二小・滝野川第三小・谷端小・滝野川もみじ小・
　　たきさん幼 ··· 19

飛鳥中・滝野川小・西ケ原小 ·· 21

都の北学園 ·· 23

Ⅱ　参考資料

北区学校ファミリー構想概要 ·· 25

王子桜中サブファミリー（王子桜中・王子小･東十条小･さくらだこども園）

1. 交流･連携の方向性

（1）研究主題

一人一人のよさや違いを認め合う授業づくり・学級づくり
－教育のユニバーサルデザインを通して－

（2）研究仮説

各教科・領域の特性に応じて、ユニバーサルデザインの視点から個々の子どものアセスメントを適切に行い、さらに必要に応じて個別に合理的配慮の提供を行っていけば、すべての子どもの「学びやすさ」や「過ごしやすさ」を高めることができるであろう。

（3）目指す子どもの姿(王子桜中サブファミリー共通)

〇学校生活において安心感をもち、おたがいを支え合うことができる子ども
〇学び合いを通して、学習のめあてを共有し学びを深めることができる子ども

（4）研究方法

ユニバーサルデザインの視点を生かして、**①特別支援教育部会 ②ＩＣＴ部会 ③道徳部会 ④幼保小連携部会**の４つの分科会構成により、校種を超えて授業実践の成果や課題を共有すると共に、子どもの発達段階に応じた授業づくりや学級づくりのあり方を探究した。さらに、（5）に掲げる取組の視点例を踏まえて、ユニバーサルデザインの視点を生かした授業づくりや学級づくりをサブファミリー全体で組織的に研究した。

（5）ユニバーサルデザインの視点例

〇安心感と支え合いのある集団づくり
〇肯定的な集団の雰囲気の醸成
〇仲間との目的意識の共有
〇望ましい学習環境や言語環境の整備
〇教師の指示や説明の明確化、発問の工夫
〇情報伝達の工夫と大事な情報の見える化，集中力を高める動作化の工夫
〇子どもの認知特性に応じた複線化や学習調整の工夫
〇単元全体を見通した授業デザインの工夫（学習の見通しと振り返り）等

2. 具体的な活動

（1）調整や話し合い・サブファミリー全体での活動

実施日	会場校	取り組み	主な活動内容
4月24日（水）	王子桜中学校	ファミリー研修会	研究主題に係る講演会、今年度の研究方針の確認と各分科会での研究協議等
5月29日（水）	王子小学校	ファミリー研修会	6／12研究授業の指導案検討・情報交換等

6月12日 （水）	王子小学校	第１回 学校ファミリーの日	王子小学校教員による研究授業および研究協議等
8月30日 （金）	各校園	ファミリー研修会	9／26研究授業の指導案検討・情報交換等 オンライン会議（東十条小をホスト校）
9月26日 （木）	東十条小学校 王子桜中学校	第２回 学校ファミリーの日	東十条小学校教員による研究授業および研究協議等
12月18日 （水）	各校園	ファミリー研修会	1／29研究授業の指導案検討・情報交換等 オンライン会議（王子桜中をホスト校）
1月29日 （水）	王子桜中学校 さくらだこども園	第３回 学校ファミリーの日	王子桜中学校およびさくらだこども園の教員による研究授業および研究協議等

（２）その他の交流活動

①通年 登下校時のあいさつ活動 （王子小・王子桜中）

②通年 合同避難訓練 （王子小・王子桜中）

③合同引き取り訓練 （王子小・東十条小・王子桜中）

④王子桜中学校２年生による職場体験学習（王子小・東十条小・さくらだこども園）

⑤小中連携学校図書館フェスティバル（王子小・王子桜中）

3. 成果と工夫した点

＜成果＞

（１）平素の各校園での指導の様子を分科会協議をとおして共有することできた。

（２）小中の児童生徒指導内容や教材研究を共同で実施できたことにより小中の連携の重要性を再認識することができた。

（３）ユニバーサルデザインを共通のテーマにすることで、発達段階の違いで効果的な指導方法のあり方を共有しながら研究できた。その結果、幼小中一貫した指導のあり方を考える意識付けが醸成できた。

＜工夫した点＞

（１）研究協議で検討した教材・教具などを授業で実践した。

（２）指導案検討の協議会を、対面でなくオンライン会議にしたことで、会場移動の手間が省かれ、スムーズな検討会ができた。資料もクラスルームに事前に共有し円滑に協議できた。

4. 課題と改善の方向性

（１）本テーマでの研究を今年度から実施したため、試行錯誤の中進めてきた。従って次年度からは、研究主題を具現化し明確に評価しやすくするために、研究の方向性や焦点をしぼって活動を進めていく必要がある。

（２）幼小中の連携を一層深めるために、校種毎に子どもたちに身に付けさせたい力（指標）を明確にしかつ共有しながら研究を進めていくことが必要である。

（３）異校種連携において、ファミリーの日以外に日頃から計画的に活動を行い、目標をより明確にして活動を進めていく。

十条富士見中サブファミリー

（十条富士見中・王子第二小･王子第三小･王子第五小･十条小・じゅうじょうなかはら幼）

１．交流・連携の方向性

・北区教育ビジョン２０２４の理念を踏まえ、十条富士見中サブファミリーの育てたい子ども像を「自ら考える子ども」「心豊かな思いやりのある子ども」「健康でたくましい子ども」とし、『知』『徳』『体』のバランスのとれた育成を目指す。

・十条富士見中サブファミリーにおける特色ある取り組みのコンセプトを「ＩＣＴの活用」とし、研究主題を「主体的・対話的で深い学びの実現を図るための指導の工夫～『きたコン』を活用した思考力・判断力・表現力の育成～」とする。

・幼稚園・小学校・中学校の幼児・児童・生徒の発達や連続性を考慮し、小・中一貫カリキュラムを活用した幼・小・中一貫教育の推進をする。

・幼児・児童・生徒の交流学習の実施や地域行事を活用した連携活動の推進をする。

２．具体的な活動

（１）運営に関する話し合い

・校園長連絡会（年度当初、年度末に計２回開催）

・運営委員会（副校長・教務主任等）

・養護教諭連絡会など必要に応じた教員連絡会

（２）サブファミリー全体での活動

・授業研究会（年間３回）　６月１２日（水）、９月１８日（水）、１月２９日（水）

・指導案検討会（年間３回）　６月５日（水）、８月３０日（金）、１月２２日（水）

・つまずきゼロプラン検討会　９月１８日（水）

・小学生の中学校体験入学　１１月２６日（火）

・幼児の中学校訪問事業

　リレー練習会　凧揚げ大会　１０月３日（木）、１月１０日（金）

・幼稚園での中学生職場体験　７月２日（火）～７月４日（木）

・図書ＰＯＰ作品交流事業　新中学一年情報交換会　１月、３月

・幼児の小学校訪問事業

　幼児の小学校交流・体験給食・体験入学　１１月５日（火）、２月６日（木）、７日（金）

　プール体験・運動会練習　７月１２日（金）、１０月１７日（木）

　音楽会見学　１１月２２日（金）、２５日（月）、２８日（木）

（３）「学校ファミリーの日」の授業研究会（年間３回）

　７つの分科会に分かれ、ＩＣＴを活用した研究授業を実施した。

・第１回授業研究会　王子第三小学校

　第１回の協議会ではオンラインで行った学習指導案の事前検討を踏まえた、ＩＣＴの活用方法を中心に協議を進め、思考力・判断力・表現力を育成するための『きたコン』の活用について理解を深めること

王子第三小学校の授業の様子

ができた。

・第２回授業研究会　十条富士見中学校

第２回の協議会は、感染症拡大のため、集合研修から書面開催に変更となった。指導案検討を踏まえ、小学校と中学校の接続を意識した、思考力・判断力・表現力を育成する授業について意見交換ができた。

髙沢先生による講演の様子

幼稚園の教育の様子

全体会では、じゅうじょうなかはら幼稚園園長、髙沢ゆみか先生による講演会「幼稚園の教育について」を実施し、幼稚園の教育活動を知ることで、子どもの発達や円滑な接続について教員の意識が高まった。

・第３回授業研究会　王子第二小学校

第３回の研究授業は第１回・第２回の研究授業を踏まえた『きたコン』のよりよい活用方法を模索した研究授業を実施した。全体会では、山本指導主事による指導講評・各分科会の発表・エバンジェリストによる報告が行われ、『きたコン』のよりよい活用方法について学びを深めることができた。

王子第二小学校授業の様子

３．成果と工夫した点

【成果】令和４年度から特色のある取組のコンセプトを「ＩＣＴの活用」として授業改善に取り組んできた。継続的に検討を進めたことで協議の中の意見に深まりが見られるとともに「きたコン」を活用した授業改善の意識も高まった。

【工夫】事前の指導案検討をオンラインで進めることで効率よく協議することができた。また、エバンジェリストからの報告を全体会で行い、資料の活用について情報共有ができた。

４．課題と改善の方向性

じゅうじょうなかはら幼稚園が５０年間の歴史を閉じて、来年度からうめのきなかよしこども園として新たなスタートを迎える。本サブファミリーではなくなるので、幼稚園を含めた１１年間を見通した一貫教育や交流についてはできなくなるが今まで培ってきた内容を大切に引き継ぎたい。

また、特色のある取組のコンセプト「ＩＣＴの活用」について、３年間の取組によって一定の成果が得られたので新たなコンセプトを検討していく。

明桜中サブファミリー（明桜中・王子第一小・豊川小・柳田小・としま若葉小）

１．交流・連携の方向性

【育てたい子ども像】
・分かる喜びを感じ、進んで学ぼうとする意欲をもつ子ども
・じっくり考え、自分の考えを豊かに表現できる子ども
・相手を思いやり、人のためにすすんで行動しようとする子ども

【協議会のテーマ】「～持続可能な社会づくりに向けた小中一貫教育の一層の推進～」
・持続可能な社会の創り手の育成を見据えながら、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善に取り組む
・各教科・特別支援学級の特性を生かした授業の在り方
（分かる、関心・意欲を高める、考える、言語活動、体験活動、課題発見・解決、きたコンの活用、少人数の効果を生かした授業等）

２．具体的な活動

（１）調整や話し合い
○　運営委員会：校長による協議・検討（定例校園長会後等を活用）
○　拡大運営委員会：校長、副校長・主幹教諭等で実施運営の協議（ＭＥＥＴの活用）

日時	会場	事業名	内容
４月　５日(金)	明桜中学校	運営委員会①	・新組織顔合わせ ・今年度の進め方の骨子確認等
５月　８日(水)	滝野川分庁舎	運営委員会②	・今年度の実施方策の協議検討
５月２９日(水)	ＭＥＥＴ	拡大委員会①	・今年度の実施方策とＳＦの日①の運営について
７月１８日(木)	ＭＥＥＴ	拡大委員会②	・ＳＦの日②の運営について
１０月　９日(水)	滝野川分庁舎	運営委員会③	・ＳＦの日②の反省 ・今後のＳＦの取組について
１２月１０日(火)	ＭＥＥＴ	拡大委員会③	・ＳＦの日③の運営について
１月２９日(水)	柳田小学校	運営委員会④	・ＳＦの日③の反省 ・今後のＳＦの取組について
３月１２日(水)	滝野川分庁舎	運営委員会⑤	・今年度の反省 ・次年度の実施計画案について

（２）サブファミリー全体での活動

日時	会場	事業名	内容
６月１２日（水）	明桜中学校	ＳＦの日①	○明桜中生徒を対象とした公開授業 ・全体会（昨年度の学力調査等の実態と現状について） ・分科会（公開授業の協議、各教科等の重点課題の協議等） ・全体会（分科会報告、今後の取組について）
８月２８日（水）	明桜中学校	小中一貫推進委員会 指導案検討会	・つまずきゼロプランの協議等 ・ＳＦの日②における指導案検討
９月１８日（水）	明桜中学校	ＳＦの日②	○豊川小児童を対象とした豊川小教員による公開授業 ・分科会（公開授業の協議、各教科等の重点課題の協議等） ・全体会（分科会報告、王一小での高学年教科担任制の取組について）

１２月２６日（木）	柳田小学校	小中一貫推進委員会 指導案検討会	・つまずきゼロプランの進捗確認等 ・ＳＦの日③における指導案検討
１月２９日（水）	柳田小学校	ＳＦの日③	○柳田小児童を対象とした公開授業 ・分科会（公開授業の協議） ・全体会（分科会報告、担当指導主事より今年度の取組の指導・助言）
２月２１日（金）	各小学校	中学校生活への期待や希望を語る会	・明桜中３年生を小学校への派遣し、中学校生活への期待や希望を小６児童に伝える（生徒会本部役員による動画紹介含む）

３．成果と工夫した点

（１）今年度のサブファミリーでの取組や実施状況の進捗確認を行う運営委員会は、全校長が一堂に介す定例校園長会後に設定した。また、当日の実施運営については、副校長や主幹教諭等を交えた拡大運営委員会をＭＥＥＴで開催した。このことにより、各校担当者が集まる時間の効率化を図ることができた。

（２）毎年４月に実施する「北区基礎・基本の定着度調査」の昨年度の結果を、各学年・各教科・設問別・学校別のグラフにまとめ、第１回ＳＦの日に提示し、各分科会におけるサブファミリーとしての課題について結果を基に分析し、その課題解決にせまる指導内容の検討を行った。第２回及び第３回ＳＦの日の実施に当たっては、指導案検討会を設定し、協議を深め授業を行った。教科によっては、メインの指導者以外に中学校を含めた他校の教員が加わり指導を行った。

（３）第２回ＳＦの日の実施は、豊川小児童を対象とし、メインとなる授業者を豊川小の教員とした授業を明桜中学校で実施した。児童にとっては、普段と異なる環境、様々な先生が授業に携わる経験はとても刺激的で有意義であり、児童の声も概ね良好だった。

（４）第３回ＳＦでは、特別支援教室での指導について事前録画したものを基に協議を深めた。通常の学級でも活用可能な指導技術や教材・教具が見られた。

（５）昨年度まで各校で実施していたアスレチックチャレンジ（陸上記録会）を、ＳＦの４小学校の６年生全児童が明桜中校庭に一同に集まり開催した。実施に当たっては、５校の教員間で事前協議を行うとともに、明桜中陸上部生徒が競技会の運営補助を行った。参加した児童からは、中学生の働きに対して憧れを抱く声が聞かれ、半年後の中学校進学への意識付けにつなげることができた。

４．課題と改善の方向性

（１）今年度進めてきた学力調査の結果を踏まえサブファミリーの子どもの課題を分科会で協議しその課題解決に向けた授業を進めるための指導案検討会及び４校の合同でのアスレチックチャレンジは次年度以降も踏襲して実施する。

（２）小学生を中学校に招いての授業は一定の成果があるものの、学校間の距離や児童の発達段階を考慮していく必要がある。次年度は中学校入学を控えた小学校６年生を対象として第３回ＳＦの日に計画する。

（３）北区学校ファミリー構想の理念に基づき、地域の子どもは地域で育てることを念頭に、９年間の義務教育を一貫した取組を引き続き展開する。その中で、小学校･中学校のそれぞれの良さや文化を理解し、異なる校種の教員をリスペクトし合える雰囲気を醸成していきたい。

堀船中サブファミリー（堀船中・滝野川第五小･堀船小）

１．交流・連携の方向性

【年間 研究主題】

「児童・生徒のよりよい人間関係を基盤とした授業づくり」

～児童・生徒相互のかかわり合いの場を整えて～

【研修テーマ策定の背景と検討の視点（令和３年度からの継続）】

・授業に〔児童・生徒相互のかかわり合いの場〕を意図的に設定し、整えていく。

⇩

児童・生徒は、互いに思いや考えを受容するようになり、安心感が醸成され、思いや考えを自由に表現するようになるという仮説を立て、対話的な学びの実現及び主体的な学びの具現化に向け、小・中学校の教員が情報交換等をとおして学び合うために、合同教員研修会や合同研究会を実施し、小・中学校の学習指導に対する教員間の共通理解を深め、指導法の連接を図る。

また、体育・健康教育を推進し、安全への意識を高める指導に取り組む。

２．具体的な活動

（１）調整や話し合い

４月１１日（木）　１５：３０～　運営委員会　堀船中学校にて

・今年度の研修実施方策及び計画検討

・研修主題は継続するものとし、各回は主題を踏まえた授業研究を行うこととした。

（２）サブファミリー全体での活動

【第１回】令和６年７月２日（火）１３：５０～１６：１５　堀船中学校

・研究授業　※ 全学級で安全指導に取り組むこととした。

［第１学年］　「安全への知恵」　田中　健介　教諭

［第２学年］　「ＳＮＳを安全に使用し、より良い人間関係を築こう」

中田　考浩　主任教諭・高山　敏郎　主任教諭

［第３学年］　「身近にひそむ　ネット依存」

岩本　康弘　主幹教諭・酒井　翔　主幹教諭

［特別支援学級］　「グループチャットの使い方を考えよう」

中川　真唯　教諭・髙橋　信幸　主任教諭

・全体会

「児童・生徒のより良い人間関係を基盤とした授業づくり～児童・生徒の相互のかかわり合いの場を整えて～」と題して、これまでの研修を踏まえ、所属の異なる小・中学校教員で４人組をつくり、「情報モラル指導が一番必要と考える問題」を取り上げ、リフレーミング等の実践に取り組みながら、コミュニケーションによるより良い関係づくりの方法について、研修を深めた。

【第２回】令和６年９月１１日（水）１３：４５～１６：２５　堀船小学校

・研究授業

［特別活動］　１年３組　黒川　美紗子　教諭

［ 理　科 ］　４年２組　宮﨑　直之　主任教諭

［特別活動］　　６年　　田中　良治　主幹教諭・鈴木　統大　主任教諭

・全体会

各教科のグループに分かれて、協議会を行った。グループ協議では、授業観察の２つの視点に沿って、「良かった点」「改善点」等の意見を交流し合い、授業改善が図れるようにした。その後、講師「加藤　憲司　先生」から授業についての指導・講評を、そして「学校安全教育」をテーマとしたご講演をいただき、全体で研修を深めることができた。

【第３回】令和７年１月２９日（水）１３：４５～１６：２５　滝野川第五小学校

・研究授業

［体育科］　　２年２組　及川　竜　教諭

［体育科］　　３年２組　吉村　寧華　教諭

［体育科］　　６年１組　鈴木　誠也　教諭

・全体会

低中高の三分科会に分かれて、協議会を行った。グループ協議では、授業の視点に沿って、「良かった点」「改善点」等の意見を交流し合い、授業改善が図れるようにした。その後、講師　眞砂野　裕　先生（昭島市立光華小校長）から授業についての指導・講評と「今体育に求められているか」「小中学校の体育で何を育みたいか」をテーマにご講演をいただき、全体で研修を深めることができた。

３．成果と工夫した点

（成果）

令和３年度からの研修主題を継承することを確認し、今年度も各校で工夫した研修に取り組んだ。継続的にご指導いただいている伊藤康嗣先生に第１回（堀船中学校主催）の講師を務めていただき、より良いかかわり合いを意識したコミュニケーションについて理解を深め、児童・生徒の相互のかかわり合い方を意識しながら授業計画を進めることができた。

（工夫した点）

学習指導案の様式を統一することで、年間をとおして、小・中学校の教員が共通の視点をもって授業観察ができるようにしている。また、体育・健康教育を進めるとととともに、今年度は安全への意識を高める指導にも取り組んだ。

４．課題と改善の方向性

深い学びを追求していくためにも「児童・生徒同士がかかわり合う場」を意図的に設け、コミュニケーションの仕方、例えば受容的に話を聴くなどのスキルについても指導していく必要がある。今後も、場の設定やコミュニケーションスキルについて、試行錯誤を重ねながら、研修を進めていきたい。

稲付中サブファミリー（稲付中・西が丘小･梅木小･うめのき幼）

１．交流・連携の方向性

稲付中サブファミリーでは、「国際理解教育の推進」をねらいとし、以下の３点のことに重点を置き、小中一貫教育を進めてきた。

① 幼・小・中の学校教育の円滑な接続を実現させ、幼児・児童・生徒の系統的な学習と確かな学力の定着を目指す。

② オリンピック・パラリンピックレガシーアワード校での取組を通し、「豊かな国際感覚」の醸成をねらいとして、スポーツを愛し、平和な社会や共生社会の実現を見据えた世界に貢献できる資質・能力の育成を図る。

③ 幼・小・中での国際理解教育を通して、広く世界を見つめ、日本人としての自覚と誇りをもち、国際社会に主体的に貢献し、共生社会を共に生き抜いていく資質・能力を育てる。

今後も、幼小中の教員が継続的に連携・協働を進めたり、「つまずきゼロプラン」を作成したり、健康・教育相談についての情報交換を行ったりすることにより、幼小中の教育内容の相互理解・教員の指導力の向上・小１問題・中１ギャップ等の課題の解消に努めていく。

２．具体的な活動

（１）調整や話し合い（稲付中サブファミリー組織構成）　　令和６年度

小中一貫教育担当校長　稲付中校長　　小代表校長（西が丘小）

運営委員会　全校長・全副校長・幼副園長･各校担当主幹（主任）
（必要に応じ、ＳＦ運営アドバイザー・指導主事・教育指導員他）

授業研究部会 各分科会チーフ	①（国語、社会）②（算数・数学、理科）③（英語、外国語活動）④（図工・美術、技術・家庭、音楽、保健体育）⑤（道徳）⑥（生活・総合）　６分科会
稲付中学校　西が丘小学校 梅木小学校　うめのき幼稚園	

（２）サブファミリー全体での活動（年間計画）

実　施　日	会　場	取　　組	内　　容
５月　９日 （木）	稲付中学校	運営委員会①	組織編成・年間計画の確認 ６月学校ファミリーの日計画
６月１９日 （水）	西が丘小学校	授業参観 運営委員会②	研究参観・協議、全体会、分科会 分科会役割分担、連携授業の準備
８月２９日 （木）	梅木小学校	授業研究分科会	指導案検討 つまずきゼロプランの検討
９月１８日 （水）	うめのき幼稚園 梅木小学校	連携授業 運営委員会③	教科分科会ごとに連携授業、研究協議会、つまずきゼロプラン検討
１２月１７日 （火）	稲付中学校	授業研究分科会	教科分科会ごとに指導案検討 つまずきゼロプランの活用

１月２９日 （水）	稲付中学校	連携授業 運営委員会④	分科会の連携授業，研究協議会 研究のまとめ（成果と課題）

３．成果と工夫した点

（１）ねらいを達成するための取組として６分科会に構成し連携をした。６月の授業参観、９月と１月の連携授業実施に向けて、ファミリーの一斉研修日を相談し設定した。幼小中に渡る子どもの成長の理解を深めながら、その実態に合わせた指導方法の検討や協議の観点を事前に確認してから当日の授業観察をするなど、子ども理解が進んだ。また、一人一人が当事者意識をもって授業研究に臨むことができた。

（２）年間３回学校ファミリーの日に幼・小・中学校の授業参観、授業研究を実施できた。特に指導案検討は対面で行うことで指導案の内容の協議が深まった。授業後の協議会では、授業における幼小・中一貫教育の視点とともに、国際理解教育の視点について忌憚のない意見を交わせ、授業力向上にもつながった。

（３）特定公開フォルダー〈稲付中ＳＦ〉は、研究授業の指導案検討や分科会運営に関する内容に留まらず、様々な情報交換の活用の幅が広がり効果的である。今後も有効活用していていく。

（４）オリンピック・パラリンピック教育レガシーアワード校（３校）として、小学校で講演会を９月６日（金）に実施した。ロンドンオリンピック４００ｍメドレーリレー銅メダリストの加藤ゆか選手と上田春佳選手を招聘し、今年度も６年生の水泳記録会と併せて実施したことで、実技での交流や指導もしていただき、実りある実践となった。

４．課題と改善の方向性

（１）授業研究での課題と改善

「国際理解教育の推進」をねらいとして「教科」という大きな括りで国際理解教育と関連付けた研究授業を行ってきたが、本時案の中で単元における国際理解教育との関連について具体的な項目があると、より関連付けて授業をデザインしていけるのではないかと検討した結果、指導案に以下の項目を付けることとした。今後も研究主題と授業研究の関連を深めたり、組織の面では教科分科会を見直したりし、検討を重ねながらねらいに迫っていきたい。

○この単元における国際理解教育との関連に✔を付ける
☐自己理解と他者理解　☐グローバル社会　☑情報教育　☑個別最適な学び
☐コミュニケーション能力の育成　☐外国語のコミュニケーション能力
☐多様化　☐日本文化理解　☐外国文化理解　☐その他（　　）

（２）研究推進についての課題と改善

３回の学校ファミリーの日では、情報交換や共通理解を図りながら研究を進め連携を深めてきたが、３校１園の横のつながりの活動については課題がある。これからも情報交換や共通理解を図りながら、充実を図っていく必要がある。

次年度はうめのき幼稚園が「うめのきなかよしこども園」となる。今年度の課題をふまえ、授業研究にとどまらず、より稲付中サブファミリーの連携が推進しやすい方向に改善を図っていく。

赤羽岩淵中サブファミリー

（赤羽岩淵中・赤羽小・岩淵小・なでしこ小・第四岩淵小）

１．交流・連携の方向性

育てたい子ども像を「学びをつなぎ生きる力を育む子ども」と設定し、以下の内容で小中合同研修や交流活動に取り組んだ。

① 児童・生徒の学習状況等の情報交換を十分に行い、小学校入学から中学校卒業までの一貫した指導に取り組む。

② 授業研究では、北区小中一貫教育カリキュラムに基づき、各教科分科会の授業計画と実践を通して、９年間を見通した小中学校の学びの連続を意識した指導を行う。

③ 小中一貫教育の一環として、児童・生徒と保護者・地域と連携した小中合同引き渡し訓練（５月２日）を実施する。保護者の引き取りの仕方や兄弟の引き取り手順の確認及び、登下校の危険個所、被災時の待ち合わせ場所等具体的に確認する。

２．具体的な活動

（１）調整や話し合い

○ サブファミリー運営委員会（各校校長）年４回行い、活動方針の決定や３回の北区学校ファミリーの日の内容や各学校間で必要な調整の確認を行った。

○ ９月１８日第２回学校ファミリーの日に小中学力向上委員会として、研究協議と学習のつまずきや児童の実態を確認し、話し合うことができた（つまずきゼロプラン）。また、２月１２日に小６中３担当連絡会を赤羽岩淵中学校にて開催した。サブファミリー校の児童・生徒の状況について、情報交換を行った。

○ 研究分科会

国語部会、社会部会、算数・数学部会、理科部会、外国語活動・英語部会、体育・保健体育・養護部会、音楽・図工・美術・技術・家庭部会、特別支援教育部会、道徳部会の９分科会を設置し、全教員が分科会に所属して企画・運営を行った。特に、ＩＣＴの活用について話し合い、学びの連続性を確認した。また、小学生と中学生の交流を推進し、展覧会作品交流展示を実施した。

（２）サブファミリー全体での活動

○ 第１回サブファミリー　全体会・各教科部会打ち合わせ

令和６年６月１２日（水）午後１時４５分赤羽岩淵中学校会場

全体の研究の進め方や各分科会の職員を紹介し、１年間の研究・組織を確認した。

○ 授業研究分科会及び研究協議会について

・第１回サブファミリー　授業研究協議会　（北区学校ファミリーの日①）

令和６年６月１２日（水）　午後１時４５分開始　赤羽岩淵中学校会場

・第２回サブファミリー　授業研究協議会　（北区学校ファミリーの日②）

令和６年９月１８日（水）　午後１時４５分開始

赤羽小学校会場

・第３回サブファミリー　授業研究協議会　（北区学校ファミリーの日③）

令和７年１月２９日（水）　午後１時４５分　開始　岩淵小学校会場

・第４回サブファミリー（臨時）小６中３担当連絡会　拡大運営委員会
令和７年２月１２日（水）午後３時００分　開始　赤羽岩淵中学校会場
・入学予定児童授業見学会
令和６年１１月２２日（金）午後１時３０分　開始　赤羽岩淵中学校会場

○ 防災・安全教育について
・小中合同引き渡し訓練実施　　令和６年５月２日（木）１３：３０　開始
赤岩中サブファミリーの中学校と各小学校で同時に実施した。
・第１回サブファミリー連絡協議会
令和６年７月１８日（木）午後３時３０分　開始
岩淵小学校会場　　赤羽警察署管内の状況や夏休みの生活や課題について
・第２回サブファミリー連絡協議会
令和６年１２月３日（火）午後３時３０分　開始
第四岩淵小学校会場　　赤羽警察署管内の状況や冬休みの生活や課題について

３．成果と工夫した点

①　９分科会を設定し、小中学校が連携した授業研究を推進している。各分科会で教科ごとに小学校から中学校への学習の連続性を意識するとともに、つまずいている項目を洗い出し、小学校教員と中学校教員が話し合い、内容を深化させることができた。

②　小学校入学から中学校卒業までの一貫した指導の流れの中で、きたコンをはじめ、ＩＣＴ機器の活用が今後より重要であることを、各分科会で活用状況の意見交換を行なった。児童・生徒の活動の視点でとらえると、文字入力をはじめ、意見交換、自身の考えやグループでの意見発表時の活用、さらに、ソフトウエア機能を使った作品やプログラミングなど幅広い活用方法が報告され、小中一貫教育の流れを感じ取ることができた。また、ＩＣＴ活用を苦手とする教員も、できる所からではなく、同じ手順や手法で模倣し、実際に実行することにより苦手意識を低くすることができ、活用の気運を上げることができた。

③　災害時を想定し、児童・生徒を保護者へ引き渡す訓練を小中学校が連携して同時間帯に実施した。保護者が小学生を迎えに行ったあとに、中学校へ来るという訓練が定着し、混乱なく実施できた。サブファミリー校が同日に一斉に引き渡し訓練を実施することで、保護者や地域の防災に対する意識は高まっている。

④　サブファミリー校の展覧会作品交流展示、あいさつ運動の生徒会と児童との交流推進を図ることができた。小中学校のＰＴＡ校外委員・ＰＴＡ役員と学校関係者・赤羽警察署が参加してのサブファミリー５校で生活連絡協議会を長期休業前（夏・冬長期休業日前）の年２回実施することにより、関係諸機関・地域・ＰＴＡと協力したファミリー間の連携行事で信頼関係がさらに深まっている。

４．課題と改善の方向性

①　第１回学校ファミリーの日の事前に運営委員会開催ができなかった。年度当初の日程変更はたいへん困難であるため、前年度から活動方針や内容を十分に検討する必要があった。

②　きたコン活用について、さらに話し合いを推進し、日頃から効果的な活用方法を模索し、連携していくことの重要性を理解した。

桐ケ丘中サブファミリー（桐ケ丘中・桐ケ丘郷小･袋小・八幡小･赤羽台西小）

１．交流・連携の方向性

桐ケ丘中サブファミリーでは、北区小中一貫モデル事業の実施方策を踏まえ、これまでのサブファミリーの活動や小中一貫教育の取組をもとに、本年度の方向性を検討し、今年度の取組等について決定した。

令和６年度の「育てたい子ども像」は、令和５年度に引き続き『何事にも意欲的に取り組み、社会の変化に主体的に対応しようとする子ども』とした。桐ケ丘中サブファミリーでは、子どもを取り巻く環境や課題が多様化、複雑化する中で、社会の持続可能な発展を牽引する力を伸ばしてほしいという観点から、ＥＳＤの視点を取り入れた「育てたい子ども像」となっている。この「育てたい子ども像」を基に小中の連携を図りつつ、生活指導や行事等を通して、活動を進めてきた。

２．具体的な活動

（１）調整や話合い

○４月に行われた桐ケ丘中サブファミリー運営委員会で、令和６年度の取組の方向性を「育てたい子ども像」を『何事にも意欲的に取り組み、社会の変化に主体的に対応しようとする子ども』に決定した。研究授業は、引き続き中学校は毎年、小学校４校は２校ずつ隔年で研究授業を実施するという確認を行った。桐ケ丘中サブファミリー５校内の連絡・調整や情報共有は、引き続き公開フォルダ内に桐ケ丘サブファミリー専用フォルダを活用した。

○第１回は桐ケ丘中学校、第２回は赤羽台西小学校、第３回は八幡小学校で研究授業、協議会、全体会を実施した。

○分科会は、昨年度から引き続き５分科会とした。

・「学力向上（国・社・数・理)」
・「外国語・英語」
・「体力向上・健康増進（保健体育)」
・「健全育成（道徳)」
・「特別支援」

各分科会に各小中学校の教員が分散するようにメンバー表を作成し、年間を通して同じメンバーで研究授業を行った。各分科会の講師はサブファミリー内の校長が行った。３回の研究授業には北区教育委員会より指導主事が来校、さらに教育委員会委員が１回来校し、全体会で指導講評をいただいた。指導案検討会はオンラインで実施した。時間の確保や参加の様子から、今後もこの形で進めていきたい。

（２）サブファミリー全体での活動

①特色ある取組

「明るいあいさつをしよう」、「はきものをそろえよう」、「じかんをまもろう」の３つを桐ケ丘子ども憲章として掲げ、５校で取り組んでいる。また、あいさつ標語を毎年児

童・生徒から募集し、生活指導主任がまとめて、ポスターを作成している。

②授業改善

５分科会（学力向上、英語、健全育成、体力向上、特別支援）ごとに目的と検討事項を明確にし、テーマに沿って意見交換と情報共有を行った。学力向上分科会は国語・算数で、英語・外国語分科会は英語で、体力向上分科会は体育で、健全育成分科会は道徳で、特別支援分科会は社会・図工・自立活動で、それぞれ授業を行った。協議会では、授業以外に日常の取組についても情報交換することができた。各協議会の記録は桐ケ丘サブファミリー専用フォルダに保存し、全体で共有している。

③地域との連携

不登校の情報交換には、地域の方々や子ども食堂の関係者などの情報も活用し児童・生徒理解を図っている。

３．成果と工夫した点

① 成果

研究授業と事前の指導案検討会にて、小・中学校の教員が１つの課題に向けて考えを出し合い、協議を深めていく中で、校内でのＯＪＴ等では得られない気付きが多くあった。また、小学校から中学校への９年間で児童・生徒を育成することの重要性を改めて実感できた。今後も「育てたい子ども像」の実現に向かって、互いに連携して高め合っていきたい。

②工夫した点

指導案や事前の指導案検討会を通じて「育てたい子ども像」の育成と授業のねらいとの関連を明確にした。また、授業のねらいと手立ての有効性についても、意見交換や情報共有を行い、検討を深めていけるようにした。

４．課題と改善の方向性

「何事にも意欲的に取り組み、社会の変化に主体的に対応しようとする子ども」の育成を目指す教育を実施してきたが、教員が更に一層学びを深め、指導力を上げていく必要性を感じた。今後も研修等を重ね、教員の資質向上を図っていきたい。

浮間中サブファミリー（浮間中・浮間小･西浮間小）

１．交流・連携の方向性

テーマ　　「主体的に学ぶ子どもの育成　～学力の定着・向上を図る授業改善～」

主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を各小学校・中学校で実践することで、学力の定着・向上を図る。また、小学校６年、中学校３年の９年間で一貫した学習規律や生活習慣等の確立を進める。

（１）授業研究（８分科会　小学校各学年＋特別支援学級＋養護）

（２）合同行事（引渡訓練、特別支援学級交流会、卒業生の話を聞く会）

（３）児童・生徒理解（中１ギャップ連絡会、小中一貫学力向上部会）

２．具体的な活動

（１）調整や話し合い

・管理職、教務主任、が研修内容や日程を調整し、情報共有することができた。

・サブファミリーの日に実施する授業研究では、サブファミリーのフォルダを活用し３校の教員による指導案検討会をサブファミリーのフォルダを活用して実施した。

・引渡訓練は、５月１１日（土）に３校合同で実施した。３校の時程を教務主任が調整し、小学校と中学校に児童・生徒を通わせている保護者に配慮した。地域清掃は、３校の実情で校内清掃を行った学校もあった。

・中１ギャップ連絡会と小中一貫学力向上部会は、ファミリーの日に実施した。

（２）サブファミリー全体での活動

・学校ファミリーの日・・・６月１２日（水）西浮間小学校
　　９月１８日（水）浮間中学校
　　１月２９日（水）浮間小学校

ファミリーフォルダやＣ４ｔｈを活用して指導案検討会を行った。

・中１ギャップ連絡会・・・ファミリーの日（研修会後）

・小中一貫学力向上部会・・夏季休業中に作業を行った。

少人数で小学校と中学校の教員が集まることができ、有意義な連絡会となった。小学校でトラブルのあった児童が中学校でどのような生活を送っているかを報告し、小中一貫教育の大切さを確認することができた。

・小学生見学会・・・・・・・１１月１日（金）

浮間小学校と西浮間小学校の６年生が浮間中学校に集まり実施した。新校舎の見学は、中学生になる心構えを自覚させる良い機会となっている。学級ごとに見学を行い、中学生が授業を受けている様子を知ることができた。また、生徒会役員が浮間中学校の説明を行い、小学生は熱心に聞いていた。

（３）特別支援学級交流

今年度も教育総合相談センター主催による新入生・転入生を迎える会が２会場での分散開催となった。他の学校との交流も深まり、有意義な行事となった。

また、令和３年度から実施している浮間小学校・浮間中学校２校による特別支援学級の交流行事も恒例となり、児童・生徒が楽しみにしている行事となっている。浮間小学校

の先生方にとっては、卒業生の成長の様子がわかり、小中一貫教育に大変役立っている。

（４）卒業生の話を聞く会

浮間小学校と西浮間小学校を卒業した浮間中学校の３年生が、母校の６年生に中学校生活を具体的に説明する会は３回目となった。

小学６年生の不安な気持ちを解消するため、中学３年生がきたコンを活用してスライドを作成し説明を行った。６年生にとっては、中１ギャップの解消につながり、小学校の先生方には卒業生の成長が見られ、楽しみにしている行事として定着している。

３．成果と工夫した点

今年度のサブファミリーの活動は、２回は授業公開後に分科会を設定し、１回は帝京大学准教授の佐野匡先生の講演をいただいた。少人数の分科会では、児童・生徒の様子や指導方法、きたコンの活用等、小中一貫教育の視点に立った活発な意見交換を行うことができた。また、講演では特別活動の大切さや楽しさ、教材の工夫について新しい発見がいくつもあった。

４．課題と改善の方向性

・来年度は、授業面の一貫教育（浮間スタイル）と生活面の一貫教育（浮間スタンダード）を考えていきたい。小学校６年間で培ってきた授業規律や生活のルールなどを中学校側が引き継ぎ、義務教育後半の３年間で、保護者や地域・学校が目指す児童・生徒の育成を行っていく。

・中１ギャップ連絡会を充実させ、入学前の聞き取りのみに頼らず、学級編成の構想や受け入れ準備を入念にする。また、児童・生徒の情報交換をさらに充実させる。

・年３回の対面の交流だけではなく、日頃の情報交換や共有事項をＩＣＴの活用を通して実施する。３校の教育活動がお互いにわかるように、サブファミリーのフォルダを活用し、学習面や生活指導面、年間行事予定表、月行事予定表など、様々な案件の情報共有をする。

・令和６年度に開校した都の北学園の取組を参考にし、小中一貫教育に根ざした教育活動を今後とも継続していく。

・地域行事として「このはまつり」がある。乳幼児や小学生が楽しみにしている行事で、中学生は、運営のお手伝いをしている。また、「浮間ミュージックフェスタ」という地域行事が増え、今回は山田区長にご挨拶をいただき盛大に開催することができた。来年度は、小学校にも参加を呼びかけるとのことであった。

田端中サブファミリー（田端中・田端小･滝野川第四小）

１．交流・連携の方向性

（１）中学校区全体の教育力を高めるため、学校・家庭・地域の協力体制を確立し、豊かな心、健やかな体、確かな学力を育てる活動を推進し、児童・生徒の健全育成を図る。

（２）中１ギャップ解消のために、小学校で学んできた学習や活動を中学校でも継続・発展させ、小・中９年間の教育の接続・一貫を目指す。

（３）学校文化の異なる多様な人間関係を学び、対人関係調整力の向上や、自己実現を目指して広い視野やたくましい心を身に付けるように努める。

（４）年３回の「学校ファミリーの日」には、３校の全教員が授業を参観し合い、小・中９年間の一貫した教育を見通し、田端中サブファミリー校で目指す子ども像や各校の教育実践について意見交換や指導方法の改善を図るよう推進する。

２．具体的な活動

（１）調整や話し合い

①第１回連絡会（滝野川第四小学校）　　令和６年５月７日（火）１５：３０～

・令和６年度の日程、担当校の確認

②第２回連絡会（滝野川第四小学校）　　令和７年１月２９日（水）１６：１５～

・令和７年度の日程調整、令和７年度の担当校の確認

	分 科 会 名
1	算数・数学、理科
2	外国語活動、英語
3	実技・芸術 （図工・美術、音楽、技術、家庭）
4	体育・保健体育、養護
5	社会（ＮＩＥ） 【担当：滝四小】
6	読書活動推進（国語） 【担当：田端小】
7	特別活動推進（道徳） 【担当：田端中】

【分科会の進め方】

①メンバーは各学校で編制し、年間、同分科会に所属することを原則とする。

②分科会の司会・記録は、担当校が行う。教員が不足する場合は、他校に手伝いを依頼する。

③授業公開では、所属する分科会の授業を参観する。分担は各校で調整する。

④分科会では、視点を明確にした話し合いを行い、各校における授業改善に役立てる。

⑤６、７の分科会は、各教科の視点も取り入れた推進をする。

・研究テーマ「小中一貫教育を視野に入れた、確かな学力を身につける授業の工夫」

児童・生徒の確かな学力を身につけさせるための授業の工夫を研究テーマを設定し、各分科会ごとに小中連携による研究を進めた。

・読書活動推進分科会が中心になって進めている「たばたの１００冊」については田端中サブファミリーで連携し、「特色ある教育活動等支援事業」として推進する。

（２）サブファミリー全体での活動

①第１回「学校ファミリーの日」（会場：田端中学校）　　令和６年６月１９日（水）

内容：授業公開（理科、英語、技術、体育、社会、国語、道徳、数学）分科会、全体会

②第２回「学校ファミリーの日」（会場：田端小学校）　　令和６年９月１８日（水）

内容：授業公開（算数、外国語、図工、体育、社会、国語、道徳）分科会、全体会、

③第３回「学校ファミリーの日」（会場：滝野川第四小学校）　令和７年１月２９日（水）

内容：授業公開（算数、外国語、図工、体育、社会、国語、道徳）分科会、全体会

④その他

・小６体験入学　令和６年９月６日（金）

（内容）校内巡り、生徒会による学校紹介、ミニ授業

・小中連携あいさつプロジェクト　令和７年１月３０日（木）、３１日（金）

小学生登校時刻にあわせて、サブファミリー小学校校門にて田端中学校生徒会があいさつ運動を実施。

３．成果と工夫した点

（１）小学校、中学校と協力し合いながら連携して、「なぜそうなるか」「なぜこうなったか」などの思考力を育てることに重点を置いた学習も行うことができた。また、各教科の基礎基本が大切であることも各分科会を通して共通理解できた。

（２）読書活動推進事業として令和４年度にスタートした「たばたの１００冊」については、図書室の環境整備のほか、具体的な活用について情報交換することにより、さらなる活用・充実に向け、見通しをもつことができた。また、鮮度を保つという観点から同じ作者の新刊や関連本も検討した。

（３）ＮＩＥ教育活動推進事業として、前年度に引き続き、各校の取り組みや成果について情報共有し、新聞に触れる機会を増やしながら活用を進めることができた。また、小学校の社会科の授業では、課題がない児童が話し合うことによって課題を見つけていたので、来年度は、話し合い活動の充実も検討していきたい。

（４）特別活動推進事業として、中学校の生徒会が中心となり、「あいさつ運動プロジェクト」を継続実施した。中学生がよい模範となり、交流を深める機会とすることができた。

４．課題と改善の方向性

（１）読書活動推進事業では「たばたの１００冊」について、出版状況、地域性、関連シリーズや作家に着目した選書、図書室の環境整備を進め、小中の交流推進を図る。

（２）ＮＩＥ教育活動推進事業については区主催「新聞大好きプロジェクト」に関わる情報交換のあり方等を見直し、分科会設定についても検討する。

（３）特別活動推進事業では児童会・生徒会活動の活性化を進め、交流を図る。

（４）外国語活動、英語活動では、中学の内容を小学校で教えていく必要はないが、中学で学習する内容をゴールとして見せたり、知らせたりする必要もある。小学校の「慣れ親しむ」学習に加え、中学の学習内容も知らせていく方法も検討したい。

滝野川紅葉中サブファミリー

（滝野川紅葉中・滝野川第二小・滝野川第三小
・谷端小・滝野川もみじ小・たきさん幼稚園）

1. 交流・連携の方向性

（１）５校１園で児童・生徒の発達段階における学習経験や学習特性についての理解を深め、実態を踏まえた学習改善の方策についての研究を深める。

（２）「主体的に学び、すすんで表現する児童生徒の育成」を共通の授業研究テーマとし、教科ごとによる授業交流と情報交換等を行い、中１ギャップの解消と教員同士の連携を深め、授業改善の視点を共有化して授業実践に取り組む。

また、育てたい子ども像を

・地域の一員として、すすんで貢献しようとする子ども
・自己肯定感をもち、自他のよさを認め合える子ども
・基本的生活習慣を身に付け、学習意欲のある子ども　と設定した。

（３）「子供たちがどのように学ぶか」という視点に立って、授業設計を深めることにより、一人一人のつまずきに対応したきめ細やかな指導の充実を目指す。

（４）伝統野菜の「滝野川ごぼう」の栽培や、滝野川地区の特色ある教育資源を活用するとともに、地域内の東京国際フランス学園との交流を通して国際理解教育を充実させ、地域に誇りをもつ活動や地域とかかわる活動を行う。

2. 具体的な活動

（１）調整や話し合い

・年度当初：５校１園の校園長‥本年度の活動計画、年間指導計画の確認
・４月２５日：第１回運営委員会（小校長・各校副校園長・教務主任）‥活動方針・実施計画、部会の組織、運営方法、構成員の確認等
・随時：教務主任・生活指導主任‥方針の共通理解、日程調整等

（２）ファミリー全体での活動

①授業研究・授業交流

授業交流は、国語、社会、算数・数学、理科、外国語活動・英語、保健体育・養護、道徳、専科（音楽、図工、美術、技術・家庭）の８分科会で、滝紅中スタンダードの実践を視点とした指導方法の工夫改善について研究を深めた。

・第１回学校ファミリーの日（６月１９日）は滝野川紅葉中学校にて授業研究
・第２回学校ファミリーの日（９月１８日）は滝野川第二小学校にて授業研究
・第３回学校ファミリーの日（１月２９日）は滝野川第三小学校にて授業研究

授業研究日は、授業を実際に参観し、その後、幼・小・中の教員で分科会ごとに協議を行い、ＳＦ各校の校長・副校長を講師に配し、指導・講評があった。第２回・第３回は事前の指導案検討を長期休業中に実施した。

②体験授業

・１月１４日‥サブファミリーの小学６年生を対象に、新入生体験授業を実施。生徒会役員による中学校生活の紹介、中学校教員による授業体験を行った。

③国際理解教育（東京国際フランス学園―リセとの交流）

・滝野川紅葉中学校‥双方に行き来し、フランス語の学習体験・書道体験などを行った。

・滝野川第二小学校は、５年生がリセの児童と交流を行った。同校ではドッジボール体験を行い、リセではフェンシング体験を行った。

・滝野川もみじ小学校‥リセの児童の作品を展覧会で展示。リセの児童が展覧会を鑑賞した。

④「滝野川ごぼう」等の栽培

・サブファミリー全校で滝野川ごぼうの栽培

・緑のボランティア等地域の方々と連携し、児童生徒の活動を支援できる体制を作った。滝野川第二小学校では、今年度、栽培する箱の給水設備を改良し、多くの収穫を得た。滝野川紅葉中学校は、地域の方にご指導いただき、これまでにない太さのごぼうが収穫できた。たきさん幼稚園では、収穫の喜びと味わう楽しさの二つを得た。

⑤キンボール大会

・１２月８日‥サブファミリーの小中学校５校の児童によるキンボールの体験会を実施した。初めて競技に触れる参加者もいる中、体験会は盛り上がりを見せた。

３．成果と工夫した点

（１）授業研究を通して、発達段階における各教科の効果的な指導のあり方やそれぞれの発達段階で身に付けるべき学習規律について探究した。授業の目的や目的達成のための手段の検討など多くの成果を収めた。

（２）４月に実施した北区基礎・基本調査の１学年国語、算数、理科、社会の結果を基に、「つまずきゼロプランシート」を作成し、小中学校で共有することで、学習のつまずきを確認し、そのための足場かけを検討・確認することができた。

（３）研究授業及び研究協議会は、開催方法を探りながらの開催であったが、分科会ごとに、小中９年間（教科によっては幼稚園を含めて１１年間）を見通した各教科における効果的な指導の在り方を探究することができた。

４．課題と改善の方向性

（１）今年度は道徳を加え、８分科会で授業研究を行った。来年度も、授業交流を通して、各教科の特性に合わせた研究を更に深めていく。

（２）サブファミリーとして、地域の特色や特性を生かした小中一貫教育の実現に向けた研究授業や交流を一層充実させる必要がある。

（３）新学習指導要領全面実施に合わせて「主体的・対話的で深い学び」の視点から指導方法や評価方法を工夫改善して実施していくことが、今後の課題である。

飛鳥中サブファミリー（飛鳥中・滝野川小･西ケ原小）

１．交流・連携の方向性

今年度のテーマである「連続性のある主体的・対話的で深い学びのカリキュラムづくり」をもとに、年間の活動を進めてきた。昨年同様、「授業研究」と「児童・生徒交流」の２つを柱として、小中一貫教育の推進を充実させるよう、連携を深めた。

～育てたい子供像～
1　意欲的に学習に取り組み、自ら学力を伸ばす子供
2　自分の良さを知り、他者を思いやり協力し合う子供
3　明るく元気に進んで運動する子供
4　地域に生き、地域を愛し、地域を支える子供

２．具体的な活動

（１）調整や話し合い

①令和６年５月　７日（火）第１回運営委員会　於：飛鳥中学校
②令和６年６月１２日（水）全体会後、運営委員会　於：西ケ原小学校
③令和６年９月１８日（水）全体会後、運営委員会　於：飛鳥中学校
④令和７年１月２９日（水）全体会後、運営委員会　於：滝野川小学校

（２）サブファミリー全体での活動

①６月１２日（水）公開授業・分科会・全体会　於：西ケ原小学校
②７月　６日（土）小中連携合同引き渡し訓練
③８月　小中連携「つまずきゼロプラン」　会議：書面にて実施
③９月１８日（水）公開授業・全体会・分科会　於：飛鳥中学校
④１２月６日（金）新入生体験入学　於：飛鳥中学校
⑤１月２９日（水）小中連携ＴＴ授業・分科会・全体会　於：滝野川小学校

～小学校と中学校のＴＴ授業風景～

（３）各分科会の取り組み

【授業研究】

第１回は西ケ原小において、テーマに沿った授業を実施し、分科会において９年間のカリキュラムの共通理解、児童・生徒がつまずきやすい事項等について協議した。

第２回は飛鳥中において、研究授業後の全体会で、飛鳥中の研修テーマである「生徒の声を活かした授業改善～３Ｋのある授業～」について紹介し、情報共有を図った。

第３回は滝野川小において、公開授業を行い、４教科（国語・算数・社会・体育）で飛鳥中教員とのＴＴ授業を行った。

【児童・生徒交流】

①保健：新入生体験入学にて、飛鳥中の保健委員会が「たばこの害」についての発表を行った。

②作品交流：美術（図画工作）、家庭科、国語科（書写）の作品交流を行った。

③図書交流：図書館支援員を中心に、ＰＯＰ交流などを行った。

３．成果と工夫した点

（１）ＴＴ授業については、児童にとっても教員にとっても刺激となり、今後も続けていきたい。児童からは、複数の目で見てくれているという思いもあり、「楽しかった」「もっと教えてほしい」などの感想があった。

（２）分科会においては、各学校の状況等の情報交換や、研修テーマに関する協議を行うなどして、有意義な会議となった。

（３）「新入生体験入学」では、６年生が飛鳥中に来校し、授業を見学したり、生徒会からの発表を見たりして、卒業後の進路についての自覚をもつことができた。

４．課題と改善の方向性

ＴＴ授業に関して、今後も続けていくためにももっとブラッシュアップしなければならない。しかし、小中の教員間で指導案を検討する時間がなかなか取れないため、オンラインを活用するなどの工夫が必要である。また、教育指導員の方から「ＴＴ授業を進めていく上での今後の課題は、目標と評価基準の共通理解をもつことである」や「ＴＴは子ども側から見ると複数の先生が見てくれている安心感があるので、肯定的な声かけをしてほしい」等のご指導をいただいた。今後、改善していきたい。

最後に、コロナ禍があけて「ファミリーの日」の内容をさらにもう一歩上を目指すためには、児童・生徒の実態や３校の特色に合ったものを目標にし、共通認識をもってそれぞれの学校で研究することが重要であり今後の課題である。

都の北学園（義務教育学校・旧神谷中サブファミリー）

１．交流・連携の方向性

（１）「交流・連携教育」から「小中一貫教育」のフラッグシップ校へ。義務教育９年間の切れ目のない一貫した指導体制と校種の特性を生かした小中一貫教育を実践する。

（２）三部会（教務・生活・特活)、校内研究は教科を中心とした各分科会を設置して、全教員がいずれかに所属し、教育カリキュラムの検討や授業研究を行う。

（３）義務教育９年間を見通したサブファミリー防災・減災教育や農業体験を実施し、地域防災の担い手や環境、食を意識した児童・生徒の育成をする。

（４）前期課程・後期課程（小・中学校）教員間の交流を活発にするとともに、互いに尊敬の念を抱くことで、教員相互の信頼関係を深める。

２．具体的な活動

（１）打合せ（日付は職員会議の日）

① 4 月 3 日(水)午後 2 時 30 分～4 時 00 分
「三部会【教務部会・生活部会・特活部会】」「企画会」「職員会議」

② 5 月 15 日(水)午後 2 時 45 分～4 時「三部会」「企画会」「職員会議」

③ 7 月 17 日(水)午後 2 時 45 分～4 時「三部会」「企画会」「職員会議」

④ 8 月 30 日(金)午後 2 時 00 分～4 時「三部会」「企画会」「職員会議」

⑤ 9 月 27 日(金)午後 2 時 45 分～4 時「三部会」「企画会」「職員会議」

⑥10 月 30 日(水)午後 2 時 45 分～4 時「三部会」「企画会」「職員会議」「研究分科会」

⑦11 月 27 日(水)午後 2 時 45 分～4 時「三部会」「企画会」「職員会議」「研究分科会」

⑧12 月 25 日(水)午後 2 時 45 分～4 時「三部会」「企画会」「職員会議」「研究分科会」

⑨ 1 月 22 日(水)午後 2 時 45 分～4 時「三部会」「企画会」「職員会議」「研究分科会」

⑩ 2 月 28 日(金)午後 2 時 45 分～4 時「三部会」「企画会」「職員会議」

⑪ 3 月 12 日(水)午後 2 時 45 分～4 時「三部会」「企画会」「職員会議」

（２）都の北学園前期課程・後期課程全体での活動

① 4 月 8 日(月)開校式・始業式

② 4 月 20 日(土)「引き渡し訓練」各教室

③ 5 月 16 日(木)５・８年生「農業体験：田植え」(ファームインさぎ山)

④ 5 月 22 日(水)研究全体会・講演　(年間講師：田中　洋一先生)

⑤ 6 月 8 日(日)午前 9 時～11 時 30 分「後期課程運動会」(北区立北運動場)

⑥ 6 月 19 日(水)研究授業（国語）４年生の授業に後期課程の教員が入る

⑦ 9 月 4 日(水)研究授業（算数）

⑧ 9 月 19 日(木) ５・８年生「農業体験：稲刈り」(ファームインさぎ山)

⑨10 月 19 日(土)午前 9 時～午後 2 時 30 分「前期課程運動会」(北区立北運動場)
９年生が応援・競技参加、５～９年生交流リレー

⑩10 月 26 日(土)「後期課程学習発表会」前期児童がリハーサルを見学

⑪11 月 2 日(土)４・７年「防災・減災教育」

⑫「都の北標語展」…「命」「愛」「人権」「あいさつ」をテーマに児童・生徒全員から標語を募集。１２月に最優秀作品１１点を選び、ポスターを作成し、校内及び町会・自治会の掲示板にて展示
⑬11 月 29 日(金)「前期課程学習発表会」後期生徒がリハーサルを見学
⑭12 月 14 日(土)「神谷地区少年の主張発表会」(本校アリーナＡ)
⑮12 月 20 日(金)「都の北まつり（前期課程)」に後期課程の生徒も参加
⑯ 1 月 22 日(水)研究授業（英語・体育）英語は６・７年のコラボ授業
⑰ 2 月 26 日(水)研究全体会（研究授業を行わなかった分科会の報告)・講演
⑱毎月の合同避難訓練

３．成果と工夫した点

（１）年間を通して、課程間（前期・後期）連携を取り入れた合同研究授業や学校行事を実施したことにより、強みや連携の意義について教員間、児童・生徒間の理解を深めることができた。日常的な前期・後期課程相互授業観察の実施により、発達段階における学習内容・学習指導方法の工夫についての理解等を深めた。

（２）農業体験、防災・減災教育において、前期課程・後期課程の連携をさらに強めるために今年度も前期課程・後期課程が混在するグループを組ませ、協働させる取り組みをおこなった。そのことにより、８年生と５年生（防災・減災教育においては７年生と４年生）の仲が今までになく深まり、都の北学園での前期課程と後期課程の連携の一つのあり方を見いだすことができた。

４．課題と改善の方向性

（１）都の北学園において様々な行事や活動での異学年交流を進めていくためには、活動担当教職員同士の緊密な連携や、他の教職員との共通理解がさらに必要となる。そのため、「言わなくても理解できるだろう」という考えを捨て、「児童・生徒、教職員の誰もが理解しやすいものになっているか」という考えで、活動を計画していく必要がある。

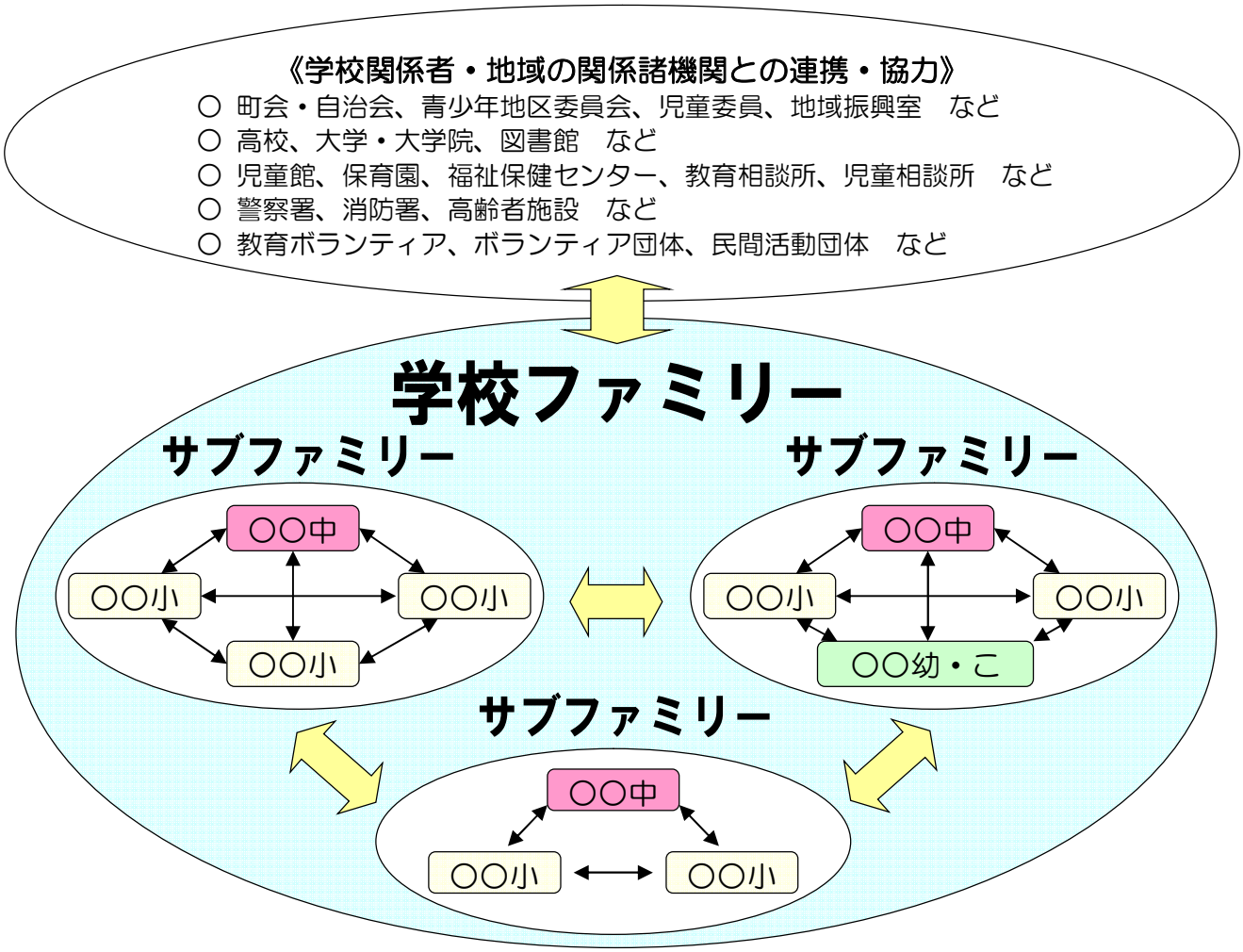
（２）前期課程・後期課程が単独で行う活動についても、もう一方の課程が「何ができるか、どのような影響を与えるか」を考慮し、連携して立案し、より充実した活動を模索する必要がある。

（３）教育課程のスムーズな進行のために、校庭が未整備で使用できないこと、体育館が学級数に対して狭いこと、前期課程と後期課程の生活時程が異なることもあり、前期課程・後期課程の児童・生徒が日常の活動を行うための場を確保することに工夫が必要である。

北区学校ファミリー構想概要

1　北区学校ファミリーとは

北区学校ファミリーとは、中学校１校といくつかの小学校・幼稚園・こども園からなる近隣複数校のネットワークです。そして、１校だけではできないことを複数校が協力して実践し、質の高い教育を実現しようというものです。（下イメージ図参照）



「北区学校ファミリー構想」は、次のような状況を踏まえて平成１５年６月に策定されました。

教育課題

- 子どもたちの学習意欲や学力の低下への懸念、生活習慣の変化により直接体験・生活経験の減少、人とかかわる力が低下、体力の低下、中学生・高校生では読書時間の減少
- 地域社会の連帯感の弱まり、就労状況の変化、核家族化により、子育て自体に困難さを生じている

学校の小規模化の中では、個々の学校が単独で新しい様々な課題に対応するには限界

改善策

- 地域の学校として**同校種間の連携や異校種間の連携・接続、地域の教育資源の活用方法**などに工夫・改善を加えた、北区の新しい教育を推進していく

2　北区学校ファミリーのねらい

①自己革新し続ける新しい学校づくりをめざします

　各学校が「開かれた」存在へと変化し、さまざまな外部機関や他校と「結ぶ」柔軟性をもち、教職員、保護者、地域住民も「ともに学び合う」という体制をつくります。そして、常に新しい教育課題に挑戦し、自己革新し続ける新しい学校づくりを目指します。

②子どもたちの教育環境を整備します

　学校の基盤となる「地域」の拡大を図り、その利点を生かして子どもたちの学びをより豊かなものとします。

③地域の教育・子育てプログラム全体の改善・充実を図ります

　学校間のネットワークだけでなく、学校と幼稚園、こども園、保育園、児童館などとの連携や学校と家庭・地域社会との幅広い連携を生み出し、広域的な地域エリアのなかに、教育・子育てのネットワークを築き上げます。

3　学校間連携による5つの効果

①教育課程の面

・共同のカリキュラム開発、多様な学習活動
・地域情報の共有、地域に根ざしたプログラム開発

②学校運営の面

・学校間の組織的な連携
・指導体制の充実（小規模化の中で学校の教育力の維持）

③子どもの学びの面

・基礎的、基本的な事項の確実な定着
・就学前教育の充実による小学校入学に対する不安の解消
・小中の交流による相互理解
・小学校高学年の中学校進学に対する不安の解消

④教員の資質向上の面

・子どもや地域の実態に応じた教員研修の実施
・授業交流や合同研修会による異校種の学習内容、指導法についての共通理解
・小中９年間を意識した的確な子どもへの援助・指導

⑤健全育成の面

・広い地域での見取り、情報収集力が高まり、関係機関との連携による質の高い対応
・保護者や地域との信頼関係の深まり

４　具体的活動

学校ファミリーによる学校間連携の内容は次の８項目になります。

①情報交換
②授業交流（幼稚園、こども園、小学校、中学校）
③教員研修の合同実施
④共同の教育課程（カリキュラム）の開発
⑤学校運営面での連携・協力
⑥学校行事での交流
⑦関係諸機関、地域の人との交流をもとにした教育活動の推進
⑧その他の連携・交流

各地域における取組みは、地域の課題などに応じてこれらのいくつかを選択するかたちになります。

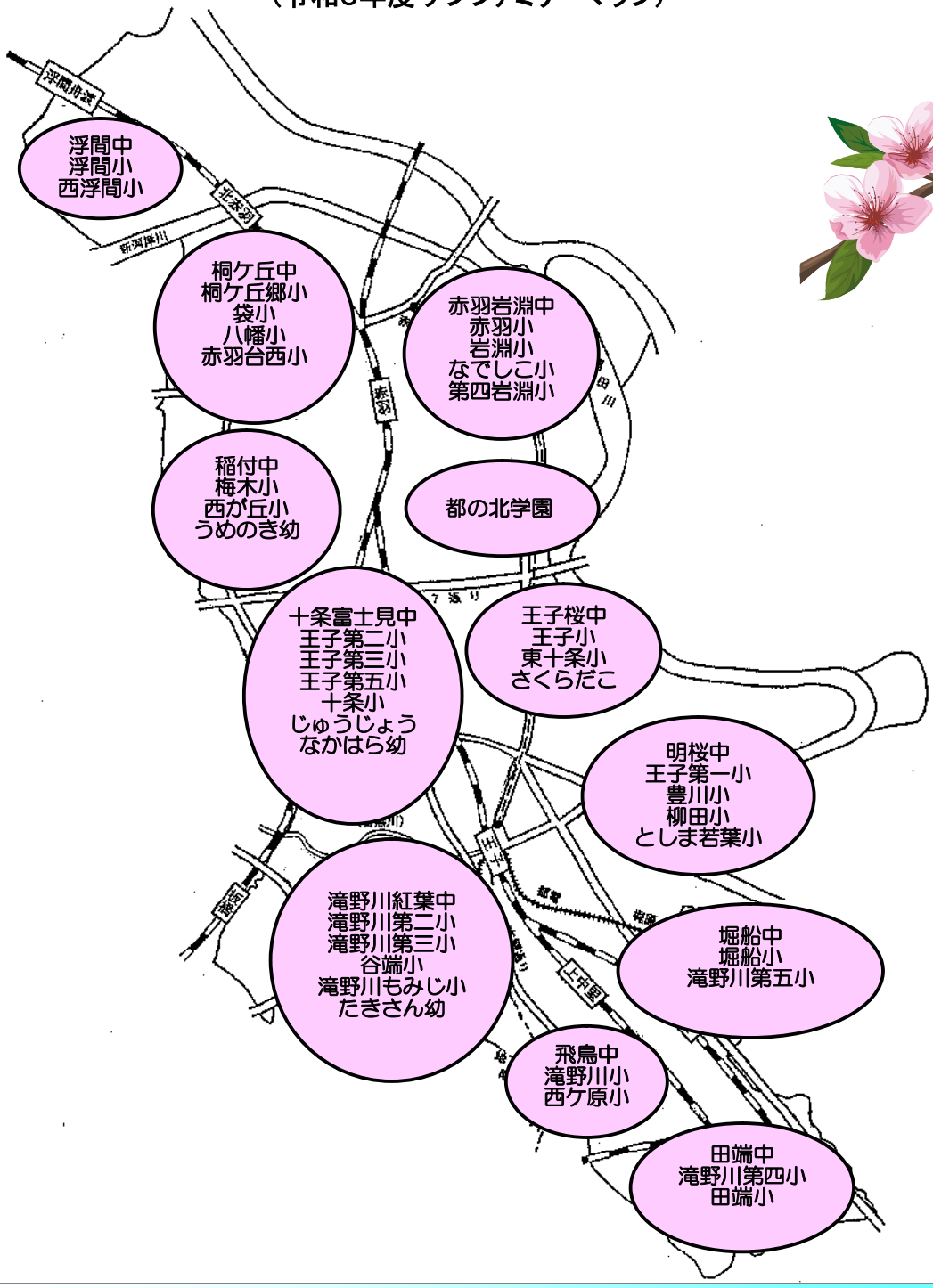
「北区学校ファミリーの日」について

北区独自の教育システムである北区学校ファミリーについての理解を深め、啓発を図るため、「北区学校ファミリーの日」を定め、各サブファミリーにおいて研究授業、授業交流、交流事業など、北区学校ファミリー事業を推進し、質の高い教育を目指します。

5　エリアの設定

学校ファミリーでは、中学校１校といくつかの小学校・幼稚園からなる組み合わせを「サブファミリー」と呼びます。

（令和6年度サブファミリーマップ）



6　今後の目標

学校ファミリーのねらいは、単に「学校改革」にとどまらず、「地域の再生・変革」にまでつながることが重要です。そのために、学校をより開かれた存在とすること、教育ボランティア導入など地域との連携の望ましい姿を研究して子どもの学びに生かすことを目標とします。

令和６年度北区学校ファミリー事業報告書

令和７年３月発行

発 行　北区教育委員会事務局 教育振興部 教育政策課
東京都北区滝野川２－５２－１０
電 話　０３－３９０８－９２７９
ＦＡＸ　０３－３９０８－１２６５

刊行物登録番号
６－１－１２３